

# 高浜町

福井県の最西端に位置する高浜町。南東はおおい町、西は京都府と境し、南西の飯盛山脈を背にして若狭湾に面している。和田地区から高浜町を経て青郷地区に至る8<sup>号</sup>は遠浅で白砂青松が続き、大正時代から海水浴場として整備が始まり全国でも有数の夏のリゾート地として知られる。ことに夏は関西・中京方面よりの海水浴客で賑わい、関西の奥座敷」と呼ばれるほど。町の西部にある青葉山の雄姿は「若狭富士」と呼ばれ、町の象徴として愛されている。町の70%は山林で、穏やかな内浦湾に面した狭い斜面に階段状に約200枚の水田が広がる日引の棚田は日本の棚田百選にも選ばれている。

町自慢の「景観」は、海・山・海岸線が見える場所、地域によって多用であり、変化に富んでいて、狭い町でありながら日本らしい景観が随所に残っている。

また、1966年から関西電力高浜原子力発電所が誘致され、74年に1号機、翌年2号機、3・4号機が80年から運転を開始。原発立地に伴って教育、福祉など公共施設も充実し、「観光とアトムの町」として町勢の発展を目指してきた。

しかし、20歳から39歳の若年女性が2040年までに50%以上減少する市町村、いわゆる「消滅可能性都市」に該当するなど人口減少対策が大きな課題となっている。さらに、2011福島原発事故による原発再稼働問題や40年超原発の運転延長問題など様々な課題を抱える中、町村合併60周年を迎えた本年を節目の年にし、夢のある明るい未来への第一歩と位置づける。野瀬豊氏が高浜町長に初当

選した7年前、地域の良さを見直す「高浜白宣言」を打ち出した。過去の拘りをフラットにし、あらゆる可能性を検討するために宣言したもので、ここからコンパクトシティ構想が生まれ、高浜町総合計画へと繋がっていった。

1期4年間は、真っ白なキャンパスに輪郭を描き、2期目からは輪郭が描かれた絵に次々と色を付けていく。

真っ白なキャンパスに多彩な色が塗られ「自助・共助・公助」による「選ばれる町」づくりは夢のある明るい一枚の絵となり、そこには町民の笑顔が溢れているだろう。

## 自助・共助・公助による「選ばれる町」づくり



## 高齢化社会を見据えた 新しいまちのかたちを描く

人口減少社会への突入や少子化、超高齢化が進む日本では、多くの市町村で住宅地・商業地の拡散と中心地の空洞化が大きな問題となっていて、

や越前市で取り組まれており、将来の安心・持続可能なまちづくりのために必要な手法として近年注目されている。

既存の資源「建物・土地」を利用して、拡散型の整備を変えて、まちを劣化させない力をつけていくことを目的とし必要な機能を集約させ管理コストを削減していくのがコンパクトシティ。県内でも福井市

高浜町でも、この10年で事代・塩土・中町・大西区などで人口減少率は特に高く、空き家も目立ってきた。また、高浜病院を核とする地域医療の再生、防災力の向上などが新たな課題となっている中、多様化した高浜町の課題の解

決に向けたまちづくりを進め、高浜の歴史と文化が色濃く残る「高浜らしさ」を活かした暮らし方を提案している。

まず安心・快適なまちづくりとして高齢者でも歩いて生活できる集約された町を目指し、防災機能の強化や持続可能な都市構造への転換に向け、高浜らしさあふれる魅力ある地域コミュニティのまちづくりを進める。

その一つが、長年懸案だった庁舎の移転新築。現庁舎は建設されてから46年、現教育会館も37年が経過し、維持管理費が嵩み老朽化も著しく、この他の公共施設についても老朽化や維持管理コストの増嵩などが進んでいた。これ以外にも、公共施設が点在していることで、各申請手続きに手間取るなど住民サービスの低下に繋がっていた。

これらの状況を総合的に勘案し、国道やJRなど公共交通機関とのアクセスが良く、

病院や商業店舗に近い便利で安心なエリアで、消防や警察と防災拠点の連携が図れる場所が適していると考え、旧山喜跡地と教育会館の周辺エリアに庁舎を移転。また、現在の教育会館は取り壊し、庁舎と併せて新たに公民館を建設することに決まった。

現在地での建替えや菌部地係への移転なども検討したが、建物の延床面積、駐車場台数の外、災害対応を踏まえた緊急性を考慮し、かつ高齢化社会を見据えた「新しいまちのかたち」を描く上において最も有力な候補地案として旧山喜跡地と教育委員会の周辺エリアが最適と判断した。

延べ床面積約6700㎡、駐車場台数109台（一般75台うち車椅子用3台、公用車3台）。道路整備費用も含み事業費31億円。今年3月に着工し、平成29年1月移転を予定。今後は住民サービス、緊急時の中核を成していく。



新高浜庁舎完成予想図



新高浜庁舎建設進捗状況

## 地域の魅力を利用した産業を 地域全体で守り育てる

中心市街地への居住者を増やし、賑わいを創出するには、農業、漁業、観光業といった地域の魅力を利用した産業の活性化が重要だ。

高浜町の漁業をとりまく環境は、漁港、市場施設など基盤施設の老朽化、漁獲量の減



大規模園芸ハウス



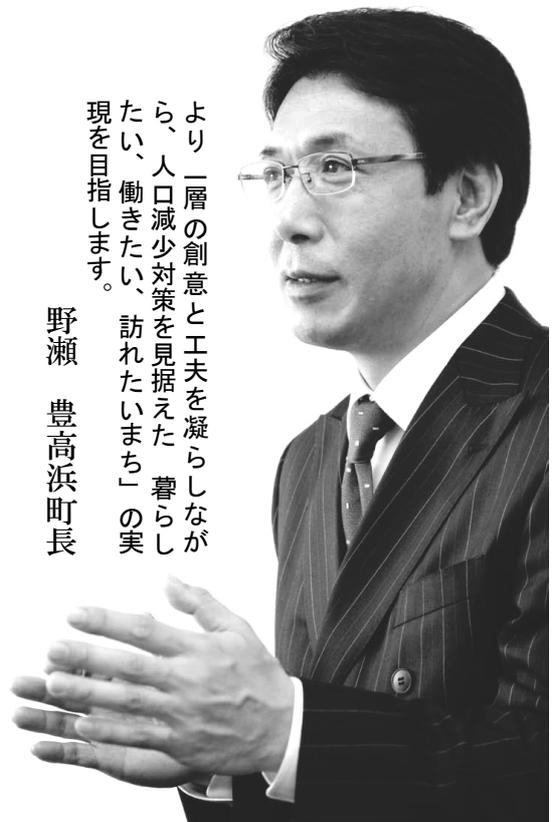
高浜市場 きな一れ

少、漁業従事者の高齢化、担い手不足などの課題を抱えている。平成24年5月、これらの改善に向けた高浜町の水産業の将来ビジョンと高浜漁港の整備方針をまとめていくことを目的に若狭高浜漁協が主体となり、漁業関係者、魚商関係者、福井県、高浜町が参加して、高浜水産業振興協議会を立ち上げた。

農業では天候変動や有害鳥獣被害に大きく左右されることなく周年的に農作物を栽培でき、高収入が望める園芸モ

より一層の創意と工夫を凝らしながら、人口減少対策を見据えた「暮らしたい、働きたい、訪れたいまち」の実現を目指します。

野瀬 豊高浜町長



デルの確立のため大規模園芸の育成を推進して、その第1号として、平成24年度に道の駅西側に約5400㎡の大規模園芸ハウスを整備し、平成25年10月に初出荷を迎えた。

このハウスで栽培されるミディトマト「越のルビー」は、毎年8月から翌7月まで周年栽培され、主に「JA」を通じて関西圏の生協や百貨店をはじめ、「道の駅シーサイド高浜」「高浜市場 きな一れ」「地元スーパー」などに出荷し、年間50〜60トの出荷量を予

定。収穫された「越のルビー」は、糖度が高く酸味は控えめで大変美味しいトマトに仕上がりが、高浜町の新たなブランド品が誕生した。

さらに、大規模に集約された施設園芸拠点の形成を目指し、生産・調整・出荷までを一気通貫して行う「次世代大規模施設園芸の拠点整備」を安土公有水面埋立地に計画。平成28年4月稼働を目指す。敷地約6haにフルティカトマトを栽培する大規模園芸ハウスと結球レタス、ホウレン草



城山公園・明鏡洞

ベビーリーフ等を栽培する植物工場、サラダ用、惣菜加工用キット、青果販売用のカット野菜工場を整備。千葉県の「和郷園グループ」 農業生産法人（株）福井和郷）による事業運営となり約100人から150人の雇用が見込まれ、百貨店等量販店、コンビニ各社、外食チェーンなどを中心に、北陸・関西・名古屋圏に販路を求め。観光業では、城山公園と周辺エリアは優れた景観を有する景勝地であり、海水浴場や漁港が整備されるなど観光と産業の場としても重要な役割を果たしてきたが、近年では

海水浴客が最盛期の6分の1に減少し、本来持つ優雅な景勝地としての環境が活かしきれていない状況にある。また、町内唯一のコンベンション機能を備えた宿泊施設として高浜の観光をリードしてきた城山荘は、施設の老朽化、臨海学校など団体客の減

## 住み続けたい、住みたい 魅力ある環境と地域のつながり

少に伴い経営面でも抜本的な改善が必要となってきた。これらは、観光客のハイシーズン型からリピーター型への転換を図るとともに町民が日常的に利用できる地域交流の活性化を担う施設として整備し、地域全体で守り育てる公園を目指す。

人口減少や人口流出、高齢化が続くと、地域のつながりの希薄化が進み、その結果、社会的弱者の孤立、地域セキユリティ機能の低下、地域の歴史や文化を伝える機会の減少などが、町の課題として現れてくる。それらの問題の解決には地域のつながり 地域コミュニティを維持するところがとても大きな力になる。そのためには住まいやくらしの環境を魅力のあるものにして、今、住んでいる人に今後



高浜町のまちなみ

利用した、高浜の自然から生まれ、引き継がれた風景に合う建物を提案、建築する勉強会など地域づくりの活動を支援し、昔からの建築技術と新技術の融合により環境に負担をかけずに快適な生活が実現

され、次世代に受け継がれる高浜建築の検討を行っている。地域の魅力を守る心を育て、町並みを活かした花植えや夜間の景観の演出・実践のための勉強会など地域づくりの活動も支援している。

## まちなかにまち全体を元気に していく場所と人を育てる

まちなかは「高浜病院」や「サンビニュー高浜」を始め、医療・福祉施設があり、住民全体の生活を支えている重要な場所。年齢や障害に関係なく、誰もが安心して生活できるように、これからも医療・福祉サービスを安定的に提供できる体制を整えていくとともに、住民同士の支えあいを広げる取り組みを行っている。中心市街地「まちなか」で福祉施設「みんなを元気にする場所」の設置を進めている。障害の有無や年齢に関係なく社会参加しやすい環境に繋げ、

この施設で働く人、訪れる人だけでなく、全ての町民の元



高浜町の地域医療の拠点「高浜病院」

気につながる場所だ。

現在の高浜町には、障害を持つ人が「暮らす・訪れる・働く」ことができる場所が不足しており、町外に多くを依存していて障害者を地域の交流や活動から遠ざけてしまう一面があった。特に、障害のある子を持つ親は、将来への不安を抱えながら生活をしてきた。

まずは障害者が元気に暮らす姿が「見える」施設をまちなかに優先的に整備し、まち全体を元気にしていく場所と人を育てることが必要と、障害福祉について話し合うネットワークグループ「ゆるるるの会」が結成された。高浜町を「やさしさで笑顔がつながるまち」にするため、会の行動指針『つながる、すすめる、安心できる』の3つの「ゆるるる」を集めて、ゆるるるの会とした。毎月の定例会のほか、イベントの応援など様々な活動を進めている。